

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	英会話Ⅰ (English ConversationⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部				1	曜日・時限	木曜4限
【授業の学習内容】							
主に高校時代に既に学んだ英語の文法や語彙に関する知識の復習と、ネイティブ講師とのスピーキングやリスニング練習を通じ、日常の様々な場面において自分の伝えたいことを自分の言葉で表現する方法を学ぶ。							
実務者経験							
【到達目標】							
・海外研修や職場、日常生活で使う英語コミュニケーションスキルの習得する。 ・相手が何を求めているのかを確認したり、依頼や意見を聞いたり、様々な場面での英語を学ぶ。 ・学生の英語学習に対する興味を高くし、海外文化についての理解を深めたり、国際的なコミュニケーションをするための自信をつける。							

授業計画・内容			
1回目	L.1 オリエンテーション、自己紹介、挨拶の仕方を学ぶ		
2回目	L.3 パーソナルな情報について、受け答えができるようになる		
3回目	L.6 趣味、好きなことについて尋ねる、また答えることができるようになる。		
4回目	L.8 意見を尋ねる、述べる。招待に対する受け答えについて学ぶ		
5回目	L.11 褒める表現、また褒められたときの受け答えについて学ぶ		
6回目	L7,13 時間について尋ねる、道案内ができるようになる		
7回目	L.14 質問に対する受け答えができるようになる		
8回目	中間総復習		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	授業を受けるにあたり、中学と高校の英語の復習をしておきましょう。 オンラインでの学習(リスニング、文法など)が可能です。		
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	受身の姿勢ではなく、自分から発信し、積極的な姿勢で授業に参加してください。 基礎英語を楽しく学びましょう。分からない時は遠慮せずに先生に質問してください。		
【使用教科書・教材・参考書】			
「Speak Now 1」 Jack C. Richards/ David Bohlke, Oxford University Press			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	情報処理入門Ⅰ	必修選 択	必修	年次	1	担当教員	熊崎 悦子
学科	こども保育科	授業形 態	講義	総時間	8	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時 限	火曜 ・ 3限
【授業の学習内容】 授業内容：PowerPointの基本操作を覚え、グループ学習によるグループプレゼンテーション発表を行い、プレゼン発表をする上でのポイントを学ぶことができる。 実務者経験：専門学校や大学にて、Microsoft officeやHP制作などのPCに関係する授業を約22年行う。就労移行支援事業所のPC講座を約11年行う。25年以上プログラミング業務も行う。基本情報処理技術者、MOS（Excel365）、工業高校教員2級を所持。							
【到達目標】 ○PowerPoint：基本操作を覚え、グループ発表のスライドをグループで作成することでプレゼン発表を習得する。 ○タイピング練習：タイピングのスコアが最初よりも＋10以上上がり、タイピングスピードが速くなる。							

授業計画・内容			
1回目	PowerPoint1 プレゼンのストーリーの作り方やスライド作成ができる。		
2回目	PowerPoint2 スライド作成ができる。		
3回目	PowerPoint3 作成したスライドにアニメーションなどの動きを入れることができる。		
4回目	PowerPoint4 グループ発表のプレゼンテーションを作成できる。		
5回目	PowerPoint5 グループ発表のプレゼンテーションを作成できる。		
6回目	PowerPoint6 グループ発表のプレゼンテーションを作成できる。		
7回目	PowerPoint7 作成したスライドを用いて、グループプレゼン発表ができる。（期末試験）		
8回目	PowerPoint8 グループプレゼンの講評を行い、プレゼンを行う機会に役に立てることができる。		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習時間外学習	タイピング練習を毎日10分くらい行ってください。 グループプレゼン用の発表スライドは授業時間内だけでは完成しませんので、時間外も作成してください。		
評価方法	1. 定期試験（90％） 2. 小テスト（0％） 3. レポート（0％） 4. 課題成果（0％） 5. 実地試験（10％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	定期テストにて評価を行います。
受講生へのメッセージ	情報処理入門Ⅰでは、PowerPointの使い方とプレゼンテーションについての習得に重点を置きます。 また、試験では、グループプレゼンテーションの発表を行いますので、PowerPointの使い方の細かい技術については、それぞれのグループでアドバイスを行っていきます。		
【使用教科書・教材・参考書】 ○テキスト 30時間でマスター プレゼンテーション＋PowerPoint2021、プリント ○データ保存のための記録媒体 USBフラッシュメモリ			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	職業人教育Ⅰ (Professionals EducationⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	笹岡 駿貴
学科	こども保育科	授業	講義	総時間	60	開講区分	通年
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	(4)	曜日・時限	木曜・2限
【授業の学習内容】 ・実習、社会を見据え逆算してプランニングをするとともに、学生スタッフの選出、学生生活とキャリア教育について深め、振る舞い、個々の成長課題と一緒に考えながら展開をしていく。 テーマに沿ったディスカッションや発表、レポート作成を中心に、様々な手法を取り入れながら、人としての土台作りを深めていく。 ・8コマ分はコミュニケーションスキルアップ検定の対策授業で実施予定をしています。 ◆実務者経験 笹岡 駿貴：これまで幼児から小学生までの体操教室・幼児サッカー・野球指導、学童保育指導員、部活動統括責任者（マネージメント業務） 放課後等デイサービスにて小中学生へのスポーツ療育指導等、子ども達へのコーチとして従事し、2024年より名古屋医健スポーツ専門学校こども保育科の専任教員として勤務。							
【到達目標】 ・自主自立した職業人に大切な心構え・振る舞いを身につける。 ・行事に向けた企画力、発表力、課題分析力を身につける。 ・多方面の視点から学びに活かす。 ・学校生活・ライフスタイルの見直し							

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーション	16回目	振り返り・レクリエーション
2回目	近畿大学九州短期大学履修計画	17回目	近大科目終末試験説明①
3回目	CSU対策①	18回目	近大科目終末試験説明②
4回目	CSU対策②	19回目	学園祭準備①
5回目	CSU対策③	20回目	学園祭準備②
6回目	CSU対策④	21回目	適材適所を考える
7回目	CSU対策⑤	22回目	年度末課題発表会について
8回目	CSU対策⑥	23回目	次年度の動きとプランニング
9回目	CSU対策⑦	24回目	発表ルール説明・発表会準備①
10回目	CSU対策⑧	25回目	発表会準備②
11回目	CSU検定	26回目	課題発表会①
12回目	マインド①（自己分析をする）	27回目	課題発表会②
13回目	マインド②（他己分析をする）	28回目	社会における保育の位置づけを考える①
14回目	ディスカッション①「捉え方・意見を受け入れる」	29回目	社会における保育の位置づけを考える②
15回目	ディスカッション②「事例を用いた議論」	30回目	まとめ・後期振り返り
準備学習 時間外学 習	授業内で課題を出します。（持ち帰り課題は無し） 内容と目的は授業内にお伝えしますので時間を見つけてコツコツ進めていきましょう。		
評価方法	1. 授業内課題 （60%） 2. 課題成果（40%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生へ のメッ セージ	学生時代にこども達の「先生」「コーチ」としての指導のキャリアがスタートしました。少しでも皆さんのお役に立てるよう一緒に寄り添いながら、私も成長していけたらと思います。		
【使用教科書・教材・参考書】			
※キャンパスノートや手帳など、メモが出来るものを1冊準備をお願いいたします。サイズ等は初回のオリエンテーションでお伝えします。			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	教育原理 (Education Principle)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	村松 香織
学科	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	水曜3限
【授業の学習内容】 本授業では、身近な存在でありながら、日常生活では、あまり深く考える機会がなかった「教育」という営みに、人々がどのように関わってきたのかを学習します。具体的にこの授業では、まず、「教育」とは何なのか、「教育」の定義や特徴について学習します。次に、学校教育がどのような経緯で誕生し、発展していったのか、学校教育の歴史を学習します。最後に、みなさんが近い将来かかわることになる、乳幼児期の子どものための教育がどのような経緯で誕生し、発展したのか、乳幼児期の教育の歴史について学習します。							
【到達目標】 (授業目標) 1. 「教育」の定義や特徴を学ぶことで、保育士や幼稚園教諭の仕事が、人々の成長に必要な不可欠であることを常に意識する態度を身につける。 2. 授業で学習する教育思想や教育方法に対し、受講生自身が、どのような教育思想や教育方法に共感したり疑問を抱いたりするのか、自ら考える力を身に付ける。 (期待される学習効果) 保育士・幼稚園教諭の仕事に誇りを持ち、様々な教育思想や教育方法に関する自らの考えを持つことは、みなさん自身が、どのような場所で、どのような保育実践を重視する「保育士」や「幼稚園教諭」になりたいのかを考えることに繋がります。この授業をきっかけに、みなさんには、自分のなりたい「教師像」とその実現の為に、現在、自分に何ができるのかを、主体的に考える態度を身につけることを期待します。							

授業計画・内容			
1回目	ガイダンス・「教育」とは何か 「教育」の意味や、「教育」と「保育」の関係性について学習する。		
2回目	学校教育の歴史1 古代・中世の学校 1 古代・中世の学校教育の特徴を把握した上で、現在の学校教育に繋がる思想がどのように誕生したのかを学習する。		
3回目	学校教育の歴史2 古代・中世の学校 2 近代教育の父であるコメニウスの教育観について学習する。		
4回目	学校教育の歴史3 近代のはじまり「形式陶冶」と「実質陶冶」 近代以降の学校教育観を理解する上で欠かせない、「形式陶冶」と「実質陶冶」という二つの概念について学習する。		
5回目	学校教育の歴史4 近代の学校教育 近代初期の教育家たち 近代初期の代表的な教育家であるベスタロッチとヘルバルトについて学習する。		
6回目	学校教育の歴史5 「新教育運動」で活躍した教育家たち 20世紀初頭にアメリカを中心に台頭した「新教育運動」の特徴や教育実践について学習する。		
7回目	学校教育の歴史6 新教育運動後～現代の学校教育 戦前、実質陶冶・形式陶冶を前提とした教育方法が、戦後どのように見直されたのかについて学習する。		
8回目	ブレイクタイム1 みなさんの作りたい学び場を創設しよう 受講生自身が、それぞれの理想とする学び場をデザインし、グループワーク(ペアワーク)を通して、それぞれの学び場設立への想いを共有し合う。		
9回目	「子ども」の教育への眼差し ―「子ども」の誕生― 「子ども」という概念がどのような歴史的経緯を経て誕生したのかを学習する。		
10回目	乳幼児期の教育に関わった人たち 1 ロックとルソー ロックとルソーの子ども観を比較し、それぞれの特徴について学習する、		
11回目	乳幼児期の教育に関わった人たち 2 フレーベル(1) 幼稚園の創設者であるフレーベルの教育観について学習する。		
12回目	乳幼児期の教育に関わった人たち 3 フレーベル(2) オーウェン 「恩物」を使った遊び方をグループで報告しあう。／保育園の創設者であるオーウェンの教育観について学習する。		
13回目	乳幼児期の教育に関わった人たち 4 モンテッソーリ モンテッソーリ教育の提唱者であるモンテッソーリの教育観について学習する。		
14回目	ブレイクタイム 2 「モンテッソーリ教具」を作ってみよう 受講生自身が、身近な道具を用いて、「モンテッソーリ教具」を作成し、教具の特徴について考える。		
15回目	期末テスト		
準備学習 時間外学習	時間外学習:授業では、グループ単位でプレゼンテーションを実施します(12・13回目の授業)。発表内容は、提出課題となるので、期日までに事前準備をお願いします(詳細は授業の中でお伝えします。)		
評価方法	1. 定期試験 70% 2. 課題成果 30%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生への メッセージ	この授業では、みなさんの積極的な授業参加を歓迎します。一方で、授業中に、授業と関係ない作業を行ったり、おしゃべりをしたり、居眠りを長時間続けたりした場合、授業への参加意思がないとみなし、退室を命じますのでご了承ください。また、この授業には、正解不正解はないので、是非、肩の力を抜いて、自ら考えることの楽しさを、味わってください。		
8			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	社会福祉	必修選択	必修	年次	1 年	担当教員	新沼英明
学科	こども保育科	授業形態	講義または演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	金曜2限
【授業の学習内容】 授業内容：本科目は「保育の本質・目的に関する科目」の1つとして位置づけられ、社会福祉の担い手である保育士には、社会福祉に関する体系的な理解が求められています。本授業では、「社会福祉」の授業で学ぶべきとされる法制度や概念・考え方を、現実社会の何に関係するのか、皆さんの聞いたことのある話題や生活経験など身近な話題から、社会福祉に関わる法制度や概念・考え方や、実際の運営や仕組み、これからの課題について、学んでいきます。 ※実務者経験：社会福祉士として障害者福祉施設、行政のソーシャルワーカーとしての勤務経験があります。それらの業務に従事して得た知見や実例を通してなるべくわかりやすく社会福祉制度について解説したいと思います。							
【到達目標】 到達目標は、①現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、②社会福祉の制度と実施体系、③社会福祉における相談援助、④社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み、⑤社会福祉の動向と課題、以上5点について理解し、説明できるようになること。							

授業計画・内容			
1回目	社会福祉の理念と歴史的変遷		
2回目	子ども家庭支援と社会福祉		
3回目	社会福祉の制度と法体系		
4回目	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等		
5回目	社会福祉の専門職		
6回目	社会保障及び関連制度の概要		
7回目	相談援助の理論、意義、機能		
8回目	相談援助の対象と過程		
9回目	相談援助の方法と技術		
10回目	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み		
11回目	少子高齢化社会における子育て支援		
12回目	共生社会の実現と障害者施策		
13回目	在宅福祉・地域福祉の推進		
14回目	諸外国の動向		
15回目	まとめと確認テスト		
準備学習時間 間外学習	予習として、授業で指示した用語などについて調べてくること（90分）。 復習として、授業内容の定着と深化を目的として、使用教科書の該当範囲を通読しておくこと（90分）。 合計60時間の準備学習が必要となります。		
評価方法	1，平常点（±20％） ※授業態度、レポート、課題等 2，定期試験（80％）	評価方法はG P A制度となります 1 0 0 ～ 9 0 点 S 8 9 ～ 8 0 点 A 7 9 ～ 7 0 点 B 6 9 ～ 6 0 点 C 5 9 点以下 F 不合格	
受講生へのメッセージ	今年度、社会福祉を担当する新沼です。本務校は桜花学園大学です。これまで行政や施設での実務経験のほか、専門学校、大学、短大で保育士養成に携わり、今年度で18年目を迎えました。みなさんと福祉問題をともに考え、問題意識を共有したいと思います。よろしくお願いします。		
【使用教科書・教材・参考書】 ※参考書は購入する必要はありません。 ＜教科書＞使用しません(毎回プリントを配布しますので、専用のファイルを用意してください)。 ＜参考書＞「こどもまんなか福祉論」(中央法規),新沼英明編著ほか			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	社会的養護Ⅰ (Social CareⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	戸高 勉
学科	こども保育科	授業	講義	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部	形態	または演習	(単位)	2	曜日・時限	火曜 ・ 1限
【授業の学習内容】 近年、子どもや家庭・地域を取り巻く環境が多様化・複雑化するなかで、「子どもの最善の利益のために」また「社会全体で子どもを育む」を理念として、家庭において養育を受けられない子どもたちへの社会的養護の充実が求められている。本講義では、社会的養護の史的展開、理念、仕組みに関する知識を習得するとともに、子どもの権利を護る視点をもって社会的養護の現状および今後の課題について説明できるようになることを目指す。 ※実務経験：2001年4月から現在まで社会福祉法人照光会の児童養護施設で勤務している。2008年～2020年まで家庭支援専門相談員として保護者対応、児童相談所、学校等の他機関との連絡調整を主な業務としていた。2021年からは副施設長として施設全体のマネジメントを業務としている。☒							
・社会的養護の歴史的展開を把握したうえで、現代社会における社会的養護の今日的意義について理解する。 ・社会的養護の理念と原理、体系、制度について理解する。 ・社会的養護の現状および課題について理解し、自分の考えや意見を述べることができる。							

授業計画・内容			
1回目	社会的養護とは何か、社会的養護を学ぶ必要性について理解する。		
2回目	社会的養護の歴史的変遷について学ぶ。		
3回目	人権としての子どもの権利について理解する。		
4回目	社会的養護の体系と制度について理解する。		
5回目	社会的養護の役割とそれを支える理念・原理について学ぶ。		
6回目	社会的養護の制度と法体系について理解する。		
7回目	社会的養護の実施体系の仕組みについて理解する。		
8回目	ファミリーソーシャルワークについて理解する。		
9回目	社会的養護の対象と支援の在り方について理解する。		
10回目	家庭養護について理解する。		
11回目	社会的養護にかかわる専門職について学ぶ。		
12回目	社会的養護に関する社会的状況について学ぶ。		
13回目	社会的養護施設等の運営管理の現状と課題について学ぶ。		
14回目	虐待防止と地域福祉の現状と課題について理解する。		
15回目	試験 講義のまとめ		
準備学習 時間外学習	テキストや配布資料、授業内で提示した文献を参考に学習を深める。 新聞やテレビ、ネットなどを観て、社会で起こっていることを情報収集する。		
評価方法	1. 出席 (20%) 2. 授業への参加度 (20%) 3. 試験 (60%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	皆さんが社会的養護について正しく理解して社会に発信できるように、なるべくわかりやすく現状を伝えていきたいと思います。また、皆さんと一緒に考える機会にもしたいと思います。		
【使用教科書・教材・参考書】 相澤仁、林浩康『社会的養護Ⅰ 新・基本保育シリーズ⑥第2版』中央法規			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	教育課程総論	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	寺部 直子
学科	こども保育科	授業	講義	総時間	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部	形態	または演習	(単位)	2	曜日・時限	木曜 3限
【授業の学習内容】 ・「教育課程」とは何かということを理解する。 ・「絵本の読み聞かせ」体験を通して、「教育課程」への理解を深める。 ・実際の幼稚園の「生活」をDVDで視聴しながら、保育の「ねらい」について理解する。 ・幼稚園教育要領の「教育課程」「指導計画」「ねらい及び内容」について理解する。							
【到達目標】 幼稚園教育要領の内容を理解した上で、教育課程の編成に関する概要がわかり、自分で日案を書くことができる。							

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーション 幼稚園の生活の中で「教育」すべきことはどんなことかディスカッションする。DVD全編視聴		
2回目	(小テスト) (絵本) 幼稚園と保育所の生活の比較		
3回目	(小テスト) (絵本) 幼保連携型認定こども園の子どもたちの生活・各保育施設の保育の基準について (課題提示)		
4回目	(課題提出・小テスト) 幼稚園教育要領「幼稚園教育の基本」 (絵本) (幼稚園の1日 登園まで)		
5回目	(小テスト) 幼稚園教育要領「幼稚園教育において育みたい資質・能力」「10の姿」 (絵本) (幼稚園の1日 朝の会)		
6回目	(小テスト) 幼稚園教育要領「幼稚園教育において育みたい資質・能力」「10の姿」 (絵本) (幼稚園の1日 設定保育)		
7回目	(小テスト) 幼稚園教育要領「教育課程の役割と編成等」 (絵本) (幼稚園の1日 昼食)		
8回目	(小テスト) 幼稚園教育要領「指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価その1」 (絵本) (幼稚園の1日 けんか)		
9回目	(小テスト) 幼稚園教育要領「指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価その2」 (絵本) (幼稚園の1日 卒園式)		
10回目	(小テスト) 幼稚園教育要領「特別な配慮を必要とする幼児への指導」 (絵本) (指導計画の書き方 基本)		
11回目	(小テスト) 幼稚園教育要領「幼稚園運営上の留意事項」 (絵本) (指導計画の書き方 よくある間違い 子どもの姿)		
12回目	(小テスト) (絵本) (指導計画の書き方 よくある間違い 子どもの活動)		
13回目	(指導計画の書き方 よくある間違い 保育者の援助)		
14回目	(指導計画の書き方 よくある間違い 環境の構成)		
15回目	(課題提出)「一日の計画」(日案)、テストとその解説		
準備学習 時間外学習	*「課題レポート」の作成 (幼稚園教育要領・指導計画) *「絵本」選び・・・その絵本を通して子どもに何を伝えたいか、その絵本を「導入」にどんな保育を展開できるか、ということ を考えながら絵本を選ぶ *課題テストのための勉強 *講義の復習 (必要に応じて講義のスライドをteamsで配信します。)		
評価方法	絵本レポート20% 幼稚園教育要領課題 10% 「一日の計画」課題 30% テスト (課題テストの内容 から出題) 40%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	主に幼稚園の生活について学びますが、保育所、幼保連携型認定こども園についても「共通」のことがらを勉強しますのでしっ かり学んでください。 絵本の読み聞かせは、毎回皆とても楽しみにしているコーナーです。素敵な絵本を選んでくださいね。		
【使用教科書・教材・参考書】 『あたらしい幼児教育課程総論』岸井勇雄・横山文樹著 同文書院 『幼稚園教育要領』フレーベル館 DVD[あしたをつかめ 平成若者仕事図鑑 幼稚園教諭]NHKエンタープライズ			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	教育方法論 (Education methodology)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	村松 香織
学科	こども保育科	授業	講義	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	(2)	曜日・時間	水曜・4限

【授業の学習内容】

本授業では、まず、「遊び」、「見える保育・見えない保育」、「カウンセリング・マインド」という、三つのキーワードを取り上げ、それぞれの言葉の意味や、なぜ、これらの言葉が保育現場で注目されているのか、それぞれのキーワードの意義について学習します。そして、これらのキーワードを意識しながら子どもたちと接していく上で、保育者は、子どもたちに対し、具体的にどのような援助をしていくべきかを検討します。

次に、本授業では、保育の現場における、子どもたちのグループ編成のあり方（保育の形態）と、評価のあり方（保育の評価）について学習します。現在、保育の現場では、様々なグループ編成や評価が行われています。本授業では、それぞれのグループ編成や評価の特徴や意義、長所や短所などを紹介します。

最後に、本授業では、文章として、学習内容をまとめたり、自分の意見を述べたりする訓練を行います。

【到達目標】

1. 保育現場で子どもたちと関わる上で、保育者が心に留めておくべき、三つの概念（遊び、見える保育・見えない保育、カウンセリングマインド）について学習する。
2. 保育の形態、保育の評価に関する特徴や意義について学習する。
3. 学習した内容を参考に、レポートや論述問題に対する解答を作成する能力を身につける。

授業計画・内容		
1回目	ガイダンス、「遊び」とはなにか 「遊び」の定義や意義について学習する。	
2回目	「遊び」を通して子どもたちは何をどのように学ぶのか 1 感じる・表現する遊びの事例を通し、子どもたちが「遊び」の中で何をどう学ぶのかを学習する。	
3回目	「遊び」を通して子どもたちは何をどのように学ぶのか 2 気づく・試す・考える遊びの事例を通し、子どもたちが「遊び」の中で何をどう学ぶのかを学習する。	
4回目	「遊び」の中の学びを育む保育 保育者の援助 子どもたちが「遊び」を通して様々なことを学んでいく為に、保育者に何ができるのかを検討する。	
5回目	「見える」保育、「見えない」保育 「見える」保育、「見えない保育」の定義や意義について学習する。	
6回目	「カウンセリングマインド」とはなにか 「カウンセリングマインド」の定義や意義について学習する。	
7回目	カウンセリングマインドで留意すべき点1ー子ども同士のやり取りを尊重することの落とし穴ー 子どもたちの社会性を育むうえで、保育者が留意すべき点について学習する。 ー事例を通し、カウンセリングマインドを基盤とした保育を実践する上で、保育者が留意すべき点について検討する。ー	
8回目	カウンセリングマインドで留意すべき点2ー「発達障がい」「HSC」の子どもたちー 子どもたちに寄り添うときに、近年留意すべき教育課題の一つである、発達障がい・HSCの子どもたちに関する理解を深める。 ー事例を通し、カウンセリングマインドを基盤とした保育を実践する上で、保育者が留意すべき点について検討する。ー	
9回目	保育の形態 1ー自由保育と一斉保育ー 自由保育と一斉保育の特徴、長所と短所について学習する。	
10回目	保育の形態 2ー年齢を基準に分類する保育の形態・特別な事情を抱えた子どもたちに配慮した保育の形態ー 年齢を基準とした保育形態について学習する。また、統合教育・インクルーシブ教育の意義や保育者の援助について検討する。	
11回目	保育の評価ー様々な保育の評価方法の特徴や意義を学習する。ー	
12回目	レポートの書き方 1 読み手に伝わりやすい書き方とは ー教育方法に関するレポートや論述問題の基本的な書き方を学習する。ー	
13回目	レポートの書き方 2 実際にレポートを書いてみよう ー前回の授業の学習内容を参考に、実際に課題レポートを作成する。ー	
14回目	レポートの書き方 3 レポートの添削 ー添削されたレポートを推敲し、より読み手に伝わりやすいレポートを作成する。ー	
15回目	テスト	
準備学習 時間外学習	授業では、時折「復習シート」を授業終了時に配ります。 復習シートの内容は、小テスト・科目終末課題試験の内容に直接繋がるので、必ず保管して下さい。 また、12～14回目のレポート作成の時間では、12回目の授業で学習した内容(レポートの書き方)を踏まえて、13回目、14回目の授業開始時までに、各自、レポートを書いてきてもらいます。 12～14回目の授業を通して、完成させたレポートは、終末課題レポート締め切り日に提出する学校課題のレポートの下書きになるので、12、13回目の授業で提示した学習課題を、必ず13、14回目の授業開始時までに終わらせるようにお願いいたします。	
評価方法	学期末テスト 50% 小テスト(計2回) 30%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格
受講生への メッセージ	本授業では、時折、みなさん自身に作業してもらったり、みなさん自身の考えを発表してもらったりする機会を設けます。授業に正解不正解はないので、是非、肩の力を抜いて、自ら考えることを楽しんでください。 また、授業中の私語や授業以外の作業、その他授業進行を阻害する行為は厳禁です。このような行為が見られた場合は、退室を命じますので、ご了承ください。	
【使用教科書・教材・参考書】 幼児教育の方法(北大路書房)		

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	教職概論 (Teaching Introduction)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	太田 昌孝
学科	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜2限
コース	昼間Ⅰ部						
【授業の学習内容】 担当教員は、これまで保育系短期大学で13年間講義を行ってきており、博士（人間文化学）（名古屋市立大学）の学位と共に教育学修士（静岡大学）の学位を有する。 本授業では、教師・保育者の意義と役割、仕事内容と専門性についての知識を習得するとともに、現代の教育におけるキーワードを説明できるようになってもらう。							
【到達目標】 教職（教師）という仕事、保育者という仕事を多角的に理解することを目標とする。受講者には、教師・保育者の意義と役割、仕事内容と専門性を理解するとともに、現代の教育状況についても理解してもらいたい。							

授業計画・内容		
1回目	オリエンテーション ＜到達目標＞授業概要を理解する。	
2回目	教師・保育者の意義と役割 ＜到達目標＞教師・保育者の意義と役割を理解する。	
3回目	教師・保育者の仕事内容 ＜到達目標＞教師・保育者の仕事内容を理解する。	
4回目	教師・保育者の専門性（１）：求められる資質と能力 ＜到達目標＞教師・保育者に求められる資質と能力を理解する。	
5回目	教師・保育者の専門性（２）：資格との関係から ＜到達目標＞教師・保育者の免許状や資格を理解する。	
6回目	教師・保育者の専門性（３）：シラバスづくり ＜到達目標＞教師・保育者に必要な学びを考える。	
7回目	教師・保育者の専門性（４）：教育技術と反省的实践家・チーム学校 ＜到達目標＞反省的实践家やチーム学校という用語を理解する。	
8回目	教師・保育者の現状（１）：教員免許状更新講習 ＜到達目標＞教員免許状更新講習について理解する。	
9回目	教師・保育者の現状（２）：教師・保育者の現状と課題 ＜到達目標＞教師・保育者を取り巻く現状と課題を理解する。	
10回目	教育の現状（１）：教育とカリキュラム ＜到達目標＞実質陶冶や形式陶冶という用語を理解する。	
11回目	教育の現状（２）：教育と評価 ＜到達目標＞絶対評価、相対評価、目標に準拠した評価という用語を理解する。	
12回目	教育の現状（３）：教育とアクティブラーニング ＜到達目標＞アクティブラーニングという用語を理解する。	
13回目	課題の発表 ＜到達目標＞文献紹介を通して教育学に関心を持つ。	
14回目	教職概論のまとめ ＜到達目標＞映像視聴を通してこれまでの内容を復習する。	
15回目	試験・講評 ＜到達目標＞授業内容の定着度を測る。	
準備学習 時間外学習	毎回、授業のリアクションペーパーを書いてくる。 13回目の授業では、保育・教育に関する文献紹介をやってもらうため、授業外の時間を利用して本を読んでおくこと。	
評価方法	1. 定時試験（10％） 2. 小テスト（0％） 3. レポート（10％） 4. 課題成果（20％） 5. 実地試験（0％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格
受講生への メッセージ	本授業は講義であるが、「聴く」活動のみならず、「書く」、「話し合う」、「発表する」などの活動を非常に多く含む。成績評価が 平常点重視なことからもわかるように、特に授業中は能動的・積極的な参加が求められる。この授業を通じて、教育学のおもしろさを少しでもわかってもらえたらうれしい。	
【使用教科書・教材・参考書】 『未来の教師に向けて＜改訂＞教職入門』（萌文書林）		

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	幼児と言葉	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	櫛田 英代
学科	こども保育科	授業	講義	総時間	15	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部	形態	または演	(単位)	1	曜日・時間	木曜 4限

【授業の学習内容】

乳児期から幼児期にかけての言葉の獲得について理解を深めるとともに、保育の場で「言葉」の指導の基礎となる豊かな言語表現能力を身につける。

実務経験者：これまで、国内外の保育施設にて乳児から幼児の保育・教育を経験。

また、保育者養成校にて学生の教育、実習指導に当たっていた。

【到達目標】

乳幼児期の言葉の獲得について学びを深める。

言葉でのコミュニケーション方法について学ぶとともに、言葉を使う面白さや難しさを体験し、子どもに伝えることができるようになる。

言葉の持つ魅力に気づき、言葉を使った多様な援助方法を学び実践できるようになる。

授業計画・内容

1回目	「幼児」と「言葉」を再考する（講義の導入）
2回目	テキスト第一章「人の生活と言葉」
3回目	テキスト第二章「乳幼児期の言葉の発達と環境」
4回目	テキスト第三章「領域「言葉」のねらいと内容」
5回目	テキスト第四章「領域「言葉」の具体的な内容」
6回目	テキスト第五章「言葉かけを中心としての援助とかかわり」
7回目	テキスト第七章「言葉の育ち（言語発達）をとらえる視点」
8回目	講義のまとめ
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習	準備学習として、テキストの次回部分を下読みしておきましょう。
時間外学習	幼児と言葉に関する新聞・雑誌の記事や書籍などを読んでみてください。

評価方法	1. レポート70% 2. 課題作成30% 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格
------	--

受講生へのメッセージ	授業を通して自分なりの保育者としてのビジョンを持ってみましょう。 授業の中でお話を紹介します。自分でも気になったお話を読んでみましょう。
------------	---

【使用教科書・教材・参考書】

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名(英)	幼児と人間関係	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	児玉 珠美
学科	子ども保育学科	授業形態	講義 または演習	総時間 (単位)	15 1	開講区分	
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時間限	前期 火曜3限

【授業の学習内容】

保育所保育指針・幼稚園教育要領に示された保育内容「人間関係」のねらいや内容について、子どもの発達過程を関連させながら理解を深める。さらに、「人間関係」における具体的な支援方法についてディスカッションや実践的な演習を体験しながら、考察を深める。

【到達目標】

保育所保育指針・幼稚園教育要領に記載されている「人間関係」にまつわる保育理念を理解でき、それらを活かしながら子どもたちを捉える視点を持てるようになる。また、俯瞰的視点から子どもを取り巻く社会的状況についての考慮を加えることで時代にあった保育支援方法が実践できるようになる。

授業計画・内容

1回目	「人間関係」
2回目	保育所保育指針・幼稚園教育要領の人間関係の理念について学ぶ
3回目	新生児の発達と関わり方について学ぶ
4回目	0・1・2歳児の発達と関わり方について学ぶ
5回目	乳幼児への語りかけ方「マザリーズ」について学ぶ
6回目	3・4・5歳児の発達と関わり方について学ぶ
7回目	保育現場の集団づくりについて学ぶ～事例を通して
8回目	多様な子どもたちとの関わり方について考える
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習時間外学習	

評価方法	〈授業への参加態度 50%〉 「主体的・対話的で深い学び」となる学生自らの授業への参加態度。 〈レポート提出 50%〉 授業内容についての理解度。 授業内容を踏まえ、学生自らの考えをレポートにてまとめる能力。	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
------	---	--	--

受講生へのメッセージ	人はいつも温かな人間関係を求めて生きています。そうした人間関係の基盤づくりは乳幼児期にあります。そして、その支援をしていくのが保育者です。子どもたちが健やかな人間関係をつくっていける大人になるために、どのように接し、働きかけていけばよいのか、いっしょに学んでいきましょう。
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

指定教科書を使用。授業毎に資料を配布。

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	幼児と環境 (Infants and the environment)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	こども保育科	授業	講義	総時間	15	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	(1)	曜日・時間	木曜4限

【授業の学習内容】

子どもの成長発達には自然、もの、事象、文字や記号、地域、文化などの環境はとても重要であり大きな影響を与える。このような環境に対して、好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力（遊びや生活を広げ深めていく力）を養う領域「環境」についての基本と実際について概説する。

実務経験：

【到達目標】

1. 乳幼児の発達に応じた領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解し、総合的に保育を展開していくための知識、技能、判断力を身に付ける。
2. 領域「環境」の特性および幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
3. 季節の移ろいや身の回りの環境の変化を取り入れた保育の実践を通して、幼児の心情、認識、思考、行動等の現代的課題を理解する。
4. 幼少期の体験や実習経験を交換し合い、保育者の役割について相互学習をすることにより自分自身に必要な指導力を認識する。

授業計画・内容		
1回目	子どもと環〈子どもを取り巻く環境の変化を理解し、乳幼児期の生活と遊びのあり方を考える〉	
2回目	領域「環境」のねらいと内容について〈子どもに関わる施設での領域「環境」の位置づけを説明できる〉	
3回目	子どもの姿から「環境」を考える〈事例検討・グループワーク〉	
4回目	「人的環境」としての保育者の役割 「物的環境」としての環境整備の重要性を考える	
5回目	自然と関わる保育と遊びの計画〈環境の特徴と好奇心探究心を引き出す環境の工夫〉	
6回目	ものの性質や仕組みに関心を持つ保育と遊びの計画〈ものの性質や仕組みに関心をもつことができる保育場面を計画する〉	
7回目	数量・図形・標識や文字に関心を持つ保育と遊びの計画〈模擬保育を通して保育を改善する視点を身に付ける〉	
8回目	まとめ〈生きる力を育むための環境の重要性を再確認し、自らの保育構想に生かす方法を考える〉	
9回目		
10回目		
11回目		
12回目		
13回目		
14回目		
15回目		
準備学習 時間外学習	・『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』を熟読しておくこと。 ・授業外においても、昆虫など動植物に興味を持って関わるようにすること。	
評価方法	1. 定期試験（80％） 2. 課題成果（20％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格
受講生への メッセージ	・草木や昆虫を実際に触ることがあります。配慮が必要な事情がある場合は申し出てください。 ・子どもたちがさまざまな環境に好奇心や探求心を持って関わることは保育において重要です。主体的に学び、この授業で学びを終えるのではなく、学びを深めるきっかけとしてください。	
【使用教科書・教材・参考書】		

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	ピアノ基礎Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	森田 千智
学科	こども保育科	授業 形態	講義又は演習	総時間	60	開講区分	通年
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	4	曜日・時限	前期・水曜2限／後期・火曜2限
【授業の学習内容】 子どもたちの感受性や表現力をより豊かに育てていくために、保育者には技術が必要です。ピアノ基礎Ⅰでは、その技術として必要な音楽の知識やピアノの演奏技術・弾き歌いを習得します。講義形式により子どもの歌や読譜に必要な知識を習得すると共に、MLシステムを使ったピアノレッスンにより個人の進度に合わせて演奏技術を習得します。また、弾き歌いは各々の進度に合わせた簡易伴奏の方法を習得します。実務者経験：保育者として現場で保育を経験し、これまで約17年間、大学の保育者・小学校教員養成課程にて指導に携わる。また、「初心者ピアノ演奏技術」に関する研究を行っている。							
【到達目標】 保育の実践の場で、子どもたちの音楽表現が支援できる子どもの歌やピアノ演奏・弾き歌いに必要な知識・技術を習得することを目標とします。 〈具体的な目標〉 目標①子どもの歌に関する知識を増やす。 目標②ピアノ演奏や弾き歌いに必要な基礎的な知識（楽典）の修得。 目標③ピアノ演奏や弾き歌いによる各自のレパートリーを増やす。							

授業計画・内容					
1回目	授業の目的と内容。MLシステムの説明。学習経験調査。		16回目	授業の目的と内容。/（目標③）ピアノレッスン	
2回目	（目標①）子どもと生活の歌について/（目標③）ピアノレッスン		17回目	（目標①）子どもと季節（秋）の歌について/（目標③）ピアノレッスン	
3回目	（目標①）子どもと生活の歌について/（目標③）ピアノレッスン		18回目	（目標①）子どもと季節（秋）の歌について/（目標③）ピアノレッスン	
4回目	（目標①）子どもと季節（春）の歌について/（目標③）ピアノレッスン		19回目	（目標①）子どもと季節（秋）の歌について/（目標③）ピアノレッスン	
5回目	（目標①）子どもと季節（春）の歌について/（目標③）ピアノレッスン		20回目	（目標①）子どもと季節（冬）の歌について/（目標③）ピアノレッスン	
6回目	（目標①）子どもと季節（夏）の歌について/（目標③）ピアノレッスン		21回目	（目標①）子どもと季節（冬）の歌について/（目標③）ピアノレッスン	
7回目	（目標①）子どもと季節（夏）の歌について/（目標③）ピアノレッスン		22回目	（目標①）子どもと季節（冬）の歌について/（目標③）ピアノレッスン	
8回目	（目標①）子どもと動物の歌について/（目標③）ピアノレッスン		23回目	（目標①）子どもと行事の歌について/（目標③）ピアノレッスン	
9回目	（目標①）子どもと動物の歌について/（目標③）ピアノレッスン		24回目	（目標①）子どもと行事の歌について/（目標③）ピアノレッスン	
10回目	（目標②）楽典（音名について）/（目標③）ピアノレッスン		25回目	（目標②）楽典（長調と短調）/（目標③）ピアノレッスン	
11回目	（目標②）楽典（音符と休符について）/（目標③）ピアノレッスン		26回目	（目標②）楽典（表現を表す記号）/（目標③）ピアノレッスン	
12回目	（目標②）楽典（拍子について）/（目標③）ピアノレッスン		27回目	（目標②）楽典（リビート記号）/（目標③）ピアノレッスン	
13回目	（目標②）楽典のまとめ/（目標③）ピアノレッスン		28回目	（目標①）楽典のまとめ/（目標③）ピアノレッスン	
14回目	筆記試験（楽典）/ピアノレッスン		29回目	筆記試験（楽典）/ピアノレッスン	
15回目	ピアノ演奏及び弾き歌いの発表		30回目	ピアノ演奏及び弾き歌いの発表	
準備学習時間外学習	（目標①）授業時に記入するワークシートを保管し、いつでも振り返ることができるようにしましょう。 （目標②）筆記試験を行うので、講義内容の復習が必要です。 （目標③）ピアノレッスンを有意義なものにするために、各自での練習が必要です。レッスン時に、演奏曲が最低1曲は合格できるように練習して授業の準備をしましょう。				
評価方法	●発表（実技試験）30％ ●筆記試験（楽典）20％ ●平常点（ワークシートの内容、合格曲の曲数等）50％		評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格		
受講生へのメッセージ	ピアノ演奏の技術習得には、日々の積み重ね（練習）が鍵を握ります。課題曲の予習・復習は必ず行いましょう。				
【使用教科書・教材・参考書】 近畿大学九州短期大学：「音楽（ピアノ教本）」、滋慶教育科学研究所：「保育士・幼稚園教諭のための音楽教本（ピアノ曲編）」、その他は随時プリントを配布。					

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	保育教材研究Ⅰ (Educational materials for childcareⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	櫛田 英代
学科	こども保育科	授業	演習	総時間	60	開講区分	通年
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	(4)	曜日・時限	前期火曜4限、後期金2限
【授業の学習内容】 保育現場で用いられている様々な教材や教具を知るとともに、子どもの前に立つシミュレーションを行い、表現の仕方を学ぶことで、教材の意図を理解した上で製作活動を行います。 実務者経験 これまで幼稚園・保育所にて乳児から幼児までの保育経験、保育士養成校にて学生教育にあたっていた。							
【到達目標】 ・保育現場において、子どもの育ちに相応しい教材を考案することができる。 ・身近な素材を使った製作を行うことや、実践を通して保育力の基礎を身につけることができるようにする。 ・計画→製作→発表→振り返り・評価の一連の過程を身につけ、学生同士改善点を共有する。 ・保育技術向上のために必要なことを考察し、自己課題を明確にできる。							

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーション 〈図工室・保育実習室の使用方法、教材について〉	16回目	トワイライトスクール①準備 〈目的を理解し、対象年齢や人数に配慮した内容を計画できる〉
2回目	お誕生日表の作成〈壁面の制作方法を知る〉	17回目	トワイライトスクール②準備 〈模擬授業を行い、改善点をあげることができる〉
3回目	自己紹介グッズ製作〈自分なりに表現することを楽しむ〉	18回目	トワイライトスクールへの参加・振り返り〈フィードバックから課題をまとめる〉
4回目	自己紹介グッズ発表〈自分なりに表現することを楽しむ〉	19回目	手袋シアター、エプロンシアター計画〈目標を決め、製作を進めることができる〉
5回目	夏祭り計画〈子どもの夏祭りの楽しみ方を知る〉	20回目	手袋シアター、エプロンシアター製作〈計画に基づき、製作を進めることができる〉
6回目	夏祭り準備	21回目	手袋シアター、エプロンシアター製作〈計画に基づき、製作を進めることができる〉
7回目	夏祭り運営〈子どもが安全に楽しく参加できるように運営する〉	22回目	手袋シアター、エプロンシアター製作〈計画に基づき、製作を進めることができる〉
8回目	季節の製作〈製作の目的を理解し、計画を立て製作を進める〉	23回目	手袋シアター、エプロンシアター発表・振り返り
9回目	季節の製作〈製作・実践する、子どもの達成感を知ることができる〉	24回目	クリスマスイベント計画〈必要な材料や予算を計画できる〉
10回目	ペープサート製作・計画〈用途、意図を知ることができる。〉	25回目	クリスマスイベント製作〈グループ、個人で製作を進めることができる〉
11回目	ペープサート製作〈子どもの道具の使い方を知り、製作できる〉	26回目	クリスマスイベント発表・振り返り〈気づきや学びを振り返る〉
12回目	ペープサート完成・発表・振り返り〈自己評価、他者評価ができる〉	27回目	季節の製作〈製作の目的を理解し、計画を立てる〉
13回目	名札製作の計画〈デザインを決め、材料を検討する〉	28回目	季節の製作〈製作物を展示した際の子どもの達成感を知ることができる〉
14回目	名札製作①〈本日の製作目標を立て、進めることができる〉	29回目	子どもイベント参加①〈保育実践として実習を行う〉
15回目	名札製作②〈本日の製作目標を立て、進めることができる〉	30回目	子どもイベント参加②〈保育実践として実習を行う〉
準備学習 時間外学習	授業時間内に製作およびイベントの準備が終わらない場合には、各自発表日までに学校に残ったり家に持ち帰ったりして仕上げてもらいます。見通しを持った計画を立て、効率よく製作にとりかかりましょう。		
評価方法	1. 出席 (50%) 2. 課題成果 (50%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S	
受講生へのメッセージ	保育現場で子どもの成長に働きかける保育教材の基礎を学んでいきます。製作して終わりではなく、ねらい、計画、環境構成、子どもへの指導方法など、現場を想定し、子どもたちの目線に立った活動を行います。保育者として子どもたちが遊びに参加したいと思えるようなアイデアを出し合っていきます。		
【使用教科書・教材・参考書】 その都度必要な物を授業内で伝えます。			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	ふれあい実習Ⅰ (Friendship TrainingⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	奥村 健介
学科	こども保育科	授業 形態	演習	総時間	60	開講区分	通年
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	(4)	曜日・時限	前期：木曜2限 後期：木曜1限
【授業の学習内容】 子どもとのふれあい遊びを通した保育の中で、運動遊び、工作あそび、レクリエーション、出し物などのテーマを決め、実践をする。実践は、学内にとどまらず、保育園や幼稚園の見学、外部のボランティア実習等も設定し参加していく。 実務者経験：幼児体育指導者として様々な園との関係があるため、子どもたちとの関わる機会を増やし、座学では味わえない体験学習を通して、学生達の可能性を広げる。							
【到達目標】 ・様々な子どもとふれあい、実際の保育を体験していく中で、座学で学んだことを実践できるようになる。 ・子どもの発達に合わせた遊びを考え、保育実践に役立てることができる。 ・子どもたちとの関わりの中で、自分自身を見つめなおす機会とともに子どもと関わる仕事の楽しさや可能性を引き出す。							

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーション①（授業の進め方、予定など）〈前期の流れの把握・授業内容を知る〉	16回目	運動と脳について①
2回目	オリエンテーション②(保育士・幼稚園教諭について)〈夢を叶えるための習慣について知る〉	17回目	運動と脳について②
3回目	最近の子どもの実体について	18回目	運動と脳について③
4回目	子どもたちの普段の生活から学べる事	19回目	工作と遊び①
5回目	3つ子の魂100までについて	20回目	工作と遊び②
6回目	若い力が今後の子どもたちを引き延ばす	21回目	工作と遊び③
7回目	レクリエーション①	22回目	知育玩具を作る①
8回目	レクリエーション②	23回目	知育玩具を作る②
9回目	思いっきり体を動かす①	24回目	知育玩具を作る③
10回目	思いっきり体を動かす②	25回目	幼児の運動療育を考える①
11回目	遊びを考える①	26回目	幼児の運動療育を考える②
12回目	伝える力を学ぶ	27回目	幼児の運動療育を考える③
13回目	聞く力を学ぶ	28回目	1年のまとめ①
14回目	話す力を学ぶ	29回目	1年のまとめ②
15回目	表現力をまなぶ	30回目	1年のまとめ③
準備学習 時間外学習	日程が合えば、幼稚園へ行き、思い切り子どもたちと遊ぶ→そこから自分に必要なスキルは何かを感じ取る		
評価方法	1.出席（50％） 2.課題成果（50％）		評価方法はGPA制度となります 100～90点 S
受講生へのメッセージ	子どもを知ることから始め、子どもたちと関わる仕事の本当の楽しさを知るきっかけにしていく。 そのために、まずは自分自身が楽しむ！そこをとことん追求していく。 急に外に行ったり、走り回るため動きやすい恰好が好ましい。		
【使用教科書・教材・参考書】 必要に応じて資料を配布する。			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度

科目名 (英)	リズム運動あそび (Rhythm Exercise Play)	必修選択	必修	年次	1	担当教員
学科	こども保育科	授業形態	講義または演習	総時間	30	開講区分
コース	昼間1部			(単位)	2	曜日・時間限

【授業の学習内容】
授業内容：
1. 人間にとって表現とは何かを考えることからはじめ、領域「表現」の位置づけ、内容を理解
2. 音やリズム、音楽を媒体とした表現について実践、観察を通して学ぶ。
3. 子どもの様々な音楽表現活動の実際を知り、指導計画立案、模擬保育を行う。
【到達目標】
自らが表現し、また他者の表現を共有、共感する体験を通して子どもの豊かな感性や表現力、能力を習得する。

授業計画・内容		
1回目	テーマ「たまご」を使って様々な表現活動を行い、「表現」とは何かを探る。＜到達目標＞	
2回目	グループワーク（替え歌づくり）を通して領域「表現」の位置づけについて学ぶ。＜到達目標＞	
3回目	動きの表現活動を通して「リズムの構造」を理解する。＜到達目標＞グループで例曲の	
4回目	動きの表現活動を通して「拍」「拍子」を理解する。＜到達目標＞いろいろな曲の拍や拍	
5回目	動きの表現活動を通して「リズムパターン」を理解する。＜到達目標＞こどものうたのり	
6回目	曲のリズムを分析し、グループでダンスを創る。＜到達目標＞グループごとに発表する。	
7回目	動きの表現活動を通して「音の高さ」とエネルギーの関係を理解する。＜到達目標＞全員	
8回目	現場のDVD鑑賞からこどものリズム運動あそびについて観察、考察する。＜到達目標＞シ	
9回目	こどものうたを使ったこどものリズム運動あそびを演習する。＜到達目標＞グループで発	
10回目	絵本を使ったこどものリズム運動あそびを演習する。＜到達目標＞グループで発表する。	
11回目	「こどものリズム運動あそび：指導計画立案」について学ぶ。 ＜到達目標＞グループごとに話し合いアイデアを出しレポートにして提出する。	
12回目	グループで指導計画を立案し模擬保育発表の練習する。	
13回目	グループで指導計画を立案し模擬保育発表練習する。	
14回目	発表と振り返りを行う。	
15回目	発表と振り返りを行う。	
準備学習時間 間外学習		
評価方法	●授業への参加態度40% ●発表への参加態度30% ●レポート30%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格
受講生へのメッセージ	日常生活の中で音楽や音楽に合わせて身体を動かすことに関心を持って過ごすようにし音楽や身体を使って子どもたちと一緒に楽しめるあそびは何だろうと想像し創造のアン業は全回動きやすい服装で参加して下さい。	
【使用教科書・教材・参考書】		

シラバス

一般社団法人 ダンス教育振興財団JDAC
前期
集中講義

発表する。

創造性を育むための援助として必要な知識、技

票>自分の考えをレポートにまとめる。

産目標>感じたことや気づきを言語化する。

「リズムの構造」を考え表現する。

拍子を表現できるようになる。

リズムパターンを考える。

鼓でハンドベル演奏する。

グループディスカッションしたことを発表す

発表する。

て下さい。

テナを立てることを心がけてみて下さい。授

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	子どもコミュニケーション学 (Children's Communication)	必修選 択	必修	年次	1	担当教員	専任教員
学科	歯科衛生科／こども保育科	授業形 態	講義 または 演習	総時間	15	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	(1)	曜日・時 限	金曜1, 2限

【授業の学習内容】

授業内容：保育者として、歯科衛生士として、子どもと関わる際に適切な援助ができるよう、子どもに対するコミュニケーションスキルを学ぶ。そして、両職種の知識を活かし、現場で活かせる媒体を制作、発表することにより、具体的な援助方法を考え検討していく。

【到達目標】

- ・小児のコミュニケーションスキルの発達や特性など、基本的な知識を理解する。
- ・具体的な援助の方法、媒体を通した伝達方法を知り、実践力を身につける。
- ・発表を通して、子どもたちに伝わる表現スキルや工夫を考える。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション〈発達段階とコミュニケーションスキル,現場での取り組みや実践方法を知る〉		
2回目	子どもの心理〈子どもの考え方の特徴を理解し、関わり方のイメージを持つ〉		
3回目	乳幼児の口腔の特徴①〈歯磨きの方法について理解することができる〉		
4回目	乳幼児の口腔の特徴②〈歯磨きの方法について理解することができる〉		
5回目	多職種連携①〈現場における歯科衛生士、保育士の関わりを理解する〉		
6回目	多職種連携②〈現場における保育士、歯科衛生士の関わりを理解する〉		
7回目	レクリエーションの実践を通して子どもの心理や関わり方を知る		
8回目	レクリエーションの実践を通して子どもの心理や関わり方を知る／まとめ・振り返り		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習時間 外学習			
評価方法	1. 出席（50％） 2. 授業取り組み姿勢、振り返りレポート、発表（50％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生へのメッセージ	子どもにとって歯の健康を維持することは基本的生活習慣の中でも非常に重要になってきます。貴重な多職種連携授業となりますので、お互いの学科で学んだことを積極的に伝え合ったり、学年を超えてアイデアを出し合ったりすることで自らの学びに繋げましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 プリント配布			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	英会話Ⅰ (English ConversationⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	こども保育科	授業	講義	総時間	15	開講区分	集中
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	1	曜日・時限	

【授業の学習内容】

身の回りの出来事を題材にした英語表現を学び、それをもとにインフォメーションギャップやグループワークで実際話したり書いたりする練習を行っていく。

【到達目標】

- ・海外研修や職場、日常生活で使う英語コミュニケーションスキルの習得する。
- ・相手が何を求めているのかを確認したり、依頼や意見を聞いたり、様々な場面での英語を学ぶ。
- ・学生の英語学習に対する興味を高くし、海外文化についての理解を深めたり、国際的なコミュニケーションをするための自信をつける。

授業計画・内容

1回目	Intoroduction
2回目	Family
3回目	Music & Games
4回目	Foods
5回目	Shopping & Consolidation
6回目	Intoroduction 2
7回目	Hpbabies
8回目	Music2
9回目	Writing
10回目	Test
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	授業を受けるにあたり、中学と高校の英語の復習をしておきましょう。 オンラインでの学習（リスニング、文法など）が可能です。
評価方法	1. 定期試験（100％） 2. 小テスト（％） 3. レポート（％） 4. 課題成果（％） 5. 実地試験（％） 評価方法はG P A制度となります 1 0 0 ～ 9 0 点 S 8 9 ～ 8 0 点 A 7 9 ～ 7 0 点 B 6 9 ～ 6 0 点 C 5 9 点以下 F 不合格
受講生への メッセージ	受身の姿勢ではなく、自分から発信し、積極的な姿勢で授業に参加してください。 基礎英語を楽しく学びましょう。分からない時は遠慮せずに先生に質問してください。

【使用教科書・教材・参考書】

「Speak Now 1」 Jack C. Richards/ David Bohlke, Oxford University Press
「Happy English for Childcare」 （金星堂）

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	生涯スポーツ (Life sports)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	山下 玲香
学科	こども保育科	授業		総時間	30	開講区分	集中授業
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	(1)	曜日・時間	
【授業の学習内容】 自身の健康や運動経験を振り返りながら、健康科学やスポーツ科学の知識を身に付け、一生涯運動をする資質を養う。また、将来子どもの発育発達に大きく影響を与える職業を目指す者として、子どもの運動や健康に関する事象を学び、理解を深める。							
【到達目標】 1) ヒトの健康や運動などの基本的な構造を学び、理解を深めることができる。 2) ヒトのライフステージにおける運動・スポーツの意義や適切な運動処方を学び、理解を深めることができる。 3) 様々な身体活動を積極的に行い、運動に対する前向きな姿勢を自身で養うことができる。							

授業計画・内容			
1回目	ガイダンス／健康の概念や考え方を知る・考える		
2回目	現代社会の健康問題について知る・考える		
3回目	室内での運動について説明・実践することができる①		
4回目	室内での運動について説明・実践することができる②		
5回目	ライフステージ別の体力や運動能力について知る・考える		
6回目	運動処方の具体的な方法について知る・考える		
7回目	学校周辺の施設を利用して身体活動を実践することができる①		
8回目	学校周辺の施設を利用して身体活動を実践することができる②		
9回目	スポーツの概念や考え方を知る・考える		
10回目	スポーツがもたらす恩恵と損失について知る・考える		
11回目	レクリエーションスポーツを実践する		
12回目	レクリエーションスポーツを作って実践する①		
13回目	レクリエーションスポーツを作って実践する②		
14回目	レポート課題の実施		
15回目	レポート課題の実施と解説／授業のまとめ		
準備学習 時間外学習	・身の回りにあふれているありとあらゆる身体活動に目を向け興味関心を持ってください。その手がかりとして、ニュース、新聞、雑誌、論文など、様々な媒体に目を通してください。 ・自分の健康、周囲の人の健康、子どもの健康など、いろんな視点で健康問題に着目してください。そのために、ニュース、新聞、雑誌、論文など、気になる項目をよく読み、記録をとってください。		
評価方法	1. 定期試験（70%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（100%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	身体を動かすことが好きな人もいれば、様々な理由で苦手意識を持つ人もいます。いろんな場面を想定して、人の気持ちに寄り添う人になれるよう、身体活動をする意義や意味、楽しさや面白さ、運動が持つ負の部分など幅広い視点に対してしっかりと目を向けて受講してください。		
【使用教科書・教材・参考書】			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	情報処理入門Ⅰ（スクーリング）	必修選 択	必修	年次	1	担当教員	熊崎 悦子
学科	こども保育科	授業形 態	講義	総時間	10	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時 限	火曜 ・ 2限
【授業の学習内容】 授業内容：Wordの基本操作を覚え、ビジネス文書の作成ができる。また、Excelの基本操作を覚え、基本の関数を使った表の作成やグラフの作成ができる。 実務者経験：専門学校や大学にて、Microsoft officeやHP制作などのPCに関係する授業を約22年行う。就労移行支援事業所のPC講座を約11年行う。25年以上プログラミング業務も行う。基本情報処理技術者、MOS（Excel365）、工業高校教員2級を所持。							
【到達目標】 ○Word:基本操作を覚えることで、簡単なビジネス文書作成や図形、イラスト、写真などを使った視覚的な書類の作成（ポスターなど）ができる。 ○Excel:基本操作や基本関数を覚えることで、計算式の入った表やグラフを作成できる。 ○タイピング練習:タイピングのスコアが最初よりも＋10以上上がり、タイピングスピードが速くなる。							

授業計画・内容			
1回目	Word1 基本的な操作を覚え、簡単な通知状を作成できる		
2回目	Word2 表を作成できる。		
3回目	Word3 画像、図形などの挿入や操作方法を覚え、視覚的な書類を作成できる。		
4回目	Word4 画像、図形などの挿入や操作方法を覚え、視覚的な書類を作成できる。		
5回目	Wordで図形や画像の入った文書を作成することができる（中間試験）		
6回目	Excel1 基本的な表を作成することができる。		
7回目	Excel2 グラフの作成をすることができる。表とグラフを印刷することができる。		
8回目	Excel3 基本的な関数を習得し、使えることができる。		
9回目	Excel4 基本的な関数を習得し、使えることができる。		
10回目	Excelで表とグラフを作成することができる（期末試験）		
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習時間 外学習	タイピング練習を毎日10分くらい行ってください。また、講義の復習を行ってください。		
評価方法	1. 定期試験（90％） 2. 小テスト（0％） 3. レポート（0％） 4. 課題成果（％） 5. 実地試験（10％） 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	主に中間テスト、期末テストにて評価を行います。	
受講生への メッセージ	WordとExcelの基本的な操作方法を中心に授業を進めます。「パソコンは嫌い」という人の大半は過去の「できない」経験をそのまま引きずっていることが多いです。しかし、パソコンは便利な道具です。その便利さをこの授業を通して少しでも理解してもらいたいと思っています。		
【使用教科書・教材・参考書】 ○テキスト 30時間でマスター Word&Excel2021、プリント ○データ保存のための記録媒体 USBフラッシュメモリ			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	幼児と音楽表現 (Toddler and musical expression)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小野 隆司
学科	こども保育科	授業	演習	総時間	15	開講区分	集中
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	1	曜日・時間	
【授業の学習内容】 様々な子どものうたを実際に歌うことにより、現場での音楽活動に必要なレパートリーを増やし、より効果的な歌唱表現を目指す。読譜に必要な基礎的な楽典の知識を理解し、ピアノ演奏技術のさらなる向上を目指す。 実務者経験：声楽・歌曲伴奏・合唱を中心に演奏活動や指導を続ける。保育系養成校においては、幼児曲の弾き歌い、ピアノ奏法などの指導を行っている							
【到達目標】 ・子どものうたの歌唱等の活動を通して、「うたうこと」へのより良い理解を深める。 ・弾き歌い、楽器演奏に必要な楽典の知識を習得し、実際の演奏に生かせるようにする。 ・ピアノ演奏を主に、器楽演奏技術の向上を目指す。							

授業計画・内容			
1回目	ガイダンス		
2回目	レッスン 声楽：記録表② ピアノ：記録表②		
3回目	レッスン 声楽：記録表② ピアノ：記録表②		
4回目	レッスン 声楽：記録表② ピアノ：記録表②		
5回目	レッスン 声楽：記録表② ピアノ：記録表②		
6回目	レッスン 声楽：記録表③ ピアノ：記録表③		
7回目	レッスン 声楽：記録表③ ピアノ：記録表③		
8回目	レッスン 声楽：記録表③ ピアノ：記録表③		
9回目	レッスン 声楽：記録表③ ピアノ：記録表③		
10回目	まとめ		
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	歌唱、ピアノともに練習あるのみです。課題への取り組み、授業後の復習は最低でも60分は楽譜を見て毎日練習を続けていくことが望ましい。		
評価方法	授業への積極的参加(50%) 発表、提出物等(50%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	音楽活動は保育士や幼稚園教諭にとって欠かせないスキルの一つです。この講義を通して、皆さんのスキル向上に役立つよう頑張りたいと思います。皆さんの積極的な参加を期待します。		
【使用教科書・教材・参考書】 「音楽(声楽教本)」 「音楽(ピアノ教本)」 近畿大学九州短期大学通信教育部			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	教育心理学 (Educational psychology)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	河嶋 珠実
学科	こども保育科	授業	講義	総時間	15	開講区分	前期 水曜1限
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	1	曜日・時間	

【授業の学習内容】

教育心理学上の知見をベースとして、幼児期を中心に生涯（特に青年期まで）にわたる心身の変化について整理した上で、子どもの発達（育ち）と学習（学び）の重要性について説明ができるようになることを目的とする。

※実務経験：2014年4月に臨床心理士、2020年に公認心理師を取得し、臨床心理士を取得以降カウンセリング業務に携わる中で、発達障害を抱える児童へのプレイセラピーの実施・保護者相談・青年期や成人を対象としたカウンセリングを行っている。

【到達目標】

保育現場にて子どもに関わる専門家として、子どもが学び育つということの意味を学び、子どもへの関わり手としての基礎的な態度を養うことを到達目標とする。

<具体的な目標>

- ①教育心理学における理論や知見を学び整理することで、乳幼児に対する根拠ある対応スキルを習得する。
- ②後半では児童虐待について取り上げる中で、虐待ケースに対して保育者がとるべき態度を習得する。

授業計画・内容

1回目	教育心理学の目的（到達目標）教育心理学の基本概念について理解する。
2回目	乳幼児の発達（到達目標）乳児期の発達特徴と愛着の機能について理解する。
3回目	幼児期の発達（到達目標）幼児期の発達特徴とピアジェの認知発達理論について理解する。
4回目	学習理論と動機づけ（到達目標）学習理論と動機づけの種類及びその効果について理解する。
5回目	知能と記憶（到達目標）知能の種類を整理し記憶のメカニズムについて理解する。
6回目	パーソナリティ（到達目標）特性論と類型論の点からパーソナリティ理論を理解し、自己のパーソナリティを考察する。
7回目	発達障害（到達目標）発達障害の定義や、個々の障害の特徴、必要な合理的配慮について理解する。
8回目	児童虐待①（到達目標）映画『誰も知らない』を通じて、ネグレクトの実態について理解する。
9回目	児童虐待②（到達目標）児童虐待の概要と子どもの人権保護の重要性について理解する。
10回目	児童虐待③（到達目標）児童虐待への対処、保護者支援の必要性について理解する。
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習 時間外学習	あらかじめテキストに目を通しておくこと。また、プリント学習後には該当のページを復習すること。		
---------------	--	--	--

評価方法	定期試験70% 授業内での小レポート 30%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
------	------------------------------	---	--

受講生への メッセージ	理論の部分については最初難しく感じるかもしれませんが、身近な例を用いながら解説していきます。毎回それぞれのテーマについて、軽いディスカッションを交えながら授業を行うので積極的な参加を期待しています。一緒に楽しく勉強していきましょう！		
----------------	--	--	--

【使用教科書・教材・参考書】

適宜指示する。

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	健康(指導法) (Health(teaching method))	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	渡邊明宏
学科	こども保育科	授業 形態	講義	総時間	15	開講区分	集中
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	
【授業の学習内容】 領域「健康」のねらいと内容、また養護に関わるねらいと内容について確認し、乳幼児における健康の重要性について再確認する。 また、保育において生命と健康を保障するための指導・援助の方法や保育内容について理解を深め、具体的な教材研究と指導計画の立案、その実践を試みる。 加えて、子どもが楽しんで取り組める運動遊びのスキルを習得する。							
【到達目標】 領域「健康」について、また乳幼児期の身体発育・運動発達について理解を深める。 また、保育における安全管理・安全教育、基本的生活習慣の獲得のための指導・援助について理解し、指導計画を立案して教材研究を行えるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	子どもにとっての健康の意義		
2回目	領域「健康」、養護に関わるねらいと内容の理解		
3回目	発育・発達と保育教材（ボール製作とオーバーハンドスロー）		
4回目	子どもの遊びの理解と実践（投げコマ）		
5回目	子どもの遊びの理解と実践（お手玉）		
6回目	子どもの遊びの理解と実践（集団遊びの理論）		
7回目	子どもの遊びの理解と実践（鬼あそび・鬼ごっこ）		
8回目	健康指導に関する模擬保育の立案・準備		
9回目	健康指導に関する模擬保育の実践		
10回目	学修と実践の振り返り		
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	子どもの育ちや健康に関する記事を新聞やインターネットであらかじめ読み、日常的に興味・関心を持つようにするこ		
評価方法	受講姿勢と提出物によって 総合的に判断する。	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生への メッセージ	保育でもっとも大切なことは、子どもの生命と健康を守ることであると言えます。健康の原則とされる栄養・休養・運動は、現代の子どもたちに十分に、あるいは適切に保障されているでしょうか。考えて、実践してみましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 必要に応じて資料を配布する。			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	人間関係(指導法) (Human relationship (teaching method))	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	渡邊明宏
学科	こども保育科	授業 形態	講義	総時間	15	開講区分	集中
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	
【授業の学習内容】 領域「人間関係」に関わる保育の内容と方法について、理論と事例に基づいて学ぶ。 また、遊び指導の立案と準備、模擬保育の実践をとおして、集団遊びやその指導・援助のあり方や考え方について習得して深める。							
【到達目標】 領域「人間関係」と、人間関係に関わる乳幼児期の心理・社会的発達の理論について理解を深める。 また、こうした視座に基づいた保育における指導・援助の実践を学び、集団遊び指導の立案と実践ができるようになることを目指す。							

授業計画・内容			
1回目	領域「人間関係」や乳幼児期の心理・社会的な発達に関する理論を再確認する。		
2回目	子どもの遊びについて、遊びにまつわる諸理論から指導を考える。		
3回目	集団遊びのための教材研究を行う。		
4回目	集団遊びの部分指導案を作成する。		
5回目	集団遊びのための準備・環境構成を行う。		
6回目	集団遊びの模擬保育を実践する。(前半グループ)		
7回目	集団遊びの模擬保育を実践する。(後半グループ)		
8回目	模擬保育実践の振り返りと反省を行う。		
9回目	模擬保育実践の振り返りを共有し、部分指導案を修正する。		
10回目	授業における学修と実践を振り返り、レポートとしてまとめる。		
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	・幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「人間関係」をよく読んでおく。 ・子どもの姿や保育の場をイメージし、人間関係にまつわる事柄に関心をもっておく。		
評価方法	受講姿勢と提出物によって 総合的に判断する。	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	子どもの活動の基盤は「遊び」であり、遊びは「学び」にとっても欠かせません。ただし、より多くの学びがもたらされるのは、ひとり遊びではなく集団遊びであり、とくに異年齢集団で心身を活発に刺激しながら遊ぶときです。そのような遊びを考えて実践してみましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 必要に応じて資料を配布する。			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	造形表現（指導法） (Formative expression (teaching method))	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	鈴木 葵
学科	こども保育科	授業	講義また	総時間	15	開講区分	集中
コース	昼間Ⅰ部	形態	は演習	(単位)	1	曜日・時間	
【授業の学習内容】 幼児にとっての造形活動体験は心身の成長発達において欠くことのできない重要な体験である。本講ではそれらを実際に体験し、幼児の発達の段階に応じた造形あそびにおける素材や技法、支援方法を学ぶ。							
【到達目標】 幼児の発達の段階に応じた造形あそびにおける素材や道具の扱い方を理解し、造形活動について考察、支援ができるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	「鉛筆デッサン①」（造形表現の基本である対象の観察について理解することができるようになる。）		
2回目	「鉛筆デッサン②」（造形表現の基本である対象の観察について理解することができるようになる。）		
3回目	「スクラッチ①」（クレパスの特徴や技法を理解し、絵画表現として扱うことができるようになる。）		
4回目	「スクラッチ②」（クレパスの特徴や技法を理解し、絵画表現として扱うことができるようになる。）		
5回目	「ステンシル」（クレパスの特徴や技法を理解し、絵画表現として扱うことができるようになる。）		
6回目	「デカルコマニー／染め紙」（水彩絵具の特徴や技法を理解し、絵画表現として扱うことができるようになる。）		
7回目	「色彩基礎演習①」（水彩絵具を使った混色の基本を学び実践することで、色の成り立ちの理解を深める。）		
8回目	「色彩基礎演習②」（水彩絵具を使った混色の基本を学び実践することで、色の成り立ちの理解を深める。）		
9回目	講義「子どもの絵について」（発達の段階に応じた幼児の絵画表現を理解することができるようになる。）		
10回目	「作品集制作」（授業内で制作した作品を一冊の本にまとめ、制作を振り返り、理解を深めることができる。）		
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	授業で扱う道具、材料の使用方法、特徴について事前に調べておくこと。		
評価方法	課題成果70% 授業内小レポート30%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	作品制作を体験することにより、新しい制作アイデアや指導方法を獲得することが目的です。自分の体験を子ども達の目線に置き換えて制作を実践することを心がけて参加してください。		
【使用教科書・教材・参考書】			
テキスト 「造形表現（指導法）」			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	音楽表現（指導法） (Musical expression teaching method)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15	開講区分
コース	昼間Ⅰ部				1	曜日・時限

【授業の学習内容】

領域「表現」の中核的な保育内容である「表現あそび」の中から、音楽表現に関する「あそび」についての在り方、その方法を検討する。

※実務者経験：神奈川県内公立中学校にて、音楽担当経験あり。現在は、保育者養成校である短期大学での音楽表現の指導法（表現）を担当している。

【到達目標】

幼稚園教育・保育の領域「表現」に関する「ねらい」及び「内容」、全体構造を理解する。音楽表現の理解し、実践的な指導法を身につける為に必要な基礎的な知識、技能を習得する。

授業計画・内容

1回目	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域
2回目	幼児と音楽との関わり、幼児への指導法、保育者の指導上の留意点
3回目	幼児の理解と評価
4回目	音楽表現あそびの教材・情報収集
5回目	音楽表現あそび（手あそび・歌あそび）
6回目	小学校音楽の授業に繋がる音楽あそび
7回目	様々な素材を使った音楽表現あそびの展開
8回目	音楽表現あそびの計画
9回目	音楽表現あそびの発表
10回目	試験
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習 時間外学習	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現		
評価方法	成果発表（30%） ワークシート（30%） 筆記試験（20%）	評価方法はG P A制度となります 1 0 0～9 0 点 S 8 9～8 0 点 A 7 9～7 0 点 B 6 9～6 0 点 C 5 9 点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	授業への積極的な参加を期待します。		
【使用教科書・教材・参考書】 講義前に提示する。			

ス

滝沢 ほだか

集中

ついて、保育者の指導・援助

と学で、音楽専門科目と保育

見の観点から幼児の学びや発

「表現」

」に目を通しておくこと。

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	環境(指導法) (Enviroment Method of Teaching)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	金森 由華
学科	こども保育科	授業 形態	講義 または演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	前期金曜4限

【授業の学習内容】

子どもの発達における環境の重要性や幼稚園教育における評価、小学校の科目とのつながりについて理解し、領域「環境」のねらいについて学習する。様々な環境にかかわる保育の内容と指導（ICT機器の活用を含む）について実践例とともに学ぶ。

水族館実習を通して、命の大切さを学ぶとともに観察力を向上させることで子ども一人一人の発達の特性に応じた総合的な指導力を養う。

【到達目標】

領域「環境」のねらいを念頭に、様々な環境にかかわる保育の内容及び指導に関する知識・技術・ICT機器の活用法を取得する。
子どもの発達における環境の重要性と幼稚園教育における評価、小学校の科目とのつながりについて理解する。

授業計画・内容

1回目	幼稚園教育の基本と領域「環境」のねらいと内容、構造
2回目	領域「環境」の内容（1～11）と指導上の留意点 ※ICT機器活用含む
3回目	幼稚園教育における評価と領域「環境」
4回目	領域「環境」と小学校科目とのつながり
5回目	幼児の発達・学びを意識した領域「環境」の観点からの保育構想
6回目	領域「環境」のねらい達成に向けたICT機器の活用法
7回目	身近な施設での模擬保育に向けた指導案の作成
8回目	身近な施設での模擬保育（作成した指導案による実践、グループワーク）
9回目	身近な施設での模擬保育の振り返りと記録作成
10回目	身近な自然・身近な事象・地域社会にかかわる保育実践、試験
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習 時間外学習	幼稚園教育要領および保育所指針の領域「環境」の部分を読み込んでおくこと。図書館やインターネットで関連文献に目を通すこと。普段の生活の中で目にする自然に目を向け、観察する習慣をつけること。
---------------	---

評価方法	1. 授業内課題 (70%) 2. グループ発表の内容 (30%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
------	--------------------------------------	---	--

受講生への メッセージ	
----------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

適宜プリントを配布する。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	言葉（指導法）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	櫛田 英代
学科	こども保育科	授業	講義	総時間	15	開講区分	前期：木曜 4 限
コース	昼間Ⅰ部	形態	または演習	(単位)	1	曜日・時間	
【授業の学習内容】 幼稚園教諭2種免許状・保育士資格、保育科卒業、ともに必修科目です。『保育所保育指針』・『幼稚園教育要領』における保育内容・言葉の「目標」・「ねらい」・「内容」を理解し、保育者としての子どもとの関わり方の具体的な方法について検討し、実践できる力をつけることを目指します。 実務経験者 これまで、国内外の保育施設にて乳児から幼児の保育・教育を経験。 また、保育者養成校にて学生の教育、実習指導に当たっ							
【到達目標】 ①人間にとっての言葉（言語）の役割・言語獲得の理論を理解し、説明できる ②子どもの言葉を育む上で適切な環境について理解し、保育者としての子どもとの関わり方を身に着け、実践できる ③『保育所保育指針』における保育内容「言葉」を理解し、言語環境の構成・言葉の力を育む指導を実践できる							

授業計画・内容			
1回目	人間にとって言葉とは何か		
2回目	言語獲得の諸理論		
3回目	積極的関わり・言葉以前のコミュニケーション		
4回目	子どもに語るお話を作ろう①言葉を選ぶ		
5回目	子どもに語るお話を作ろう②主旨を選ぶ		
6回目	子どもの言葉を引き出す保育者の関わり		
7回目	物語と子どもの表現力・文字への気づき		
8回目	紙芝居をつくろう①言葉で語ることを通した信頼関係		
9回目	紙芝居をつくろう②言葉・お話・芝居を通した楽しい関わり		
10回目	子どもの言葉を育む保育実践の構想と実践		
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	事前に『保育所保育指針解説書』・『幼稚園教育要領解説』・『幼保連携型認定こども園教育保育要領』の保育内容・「言葉」の箇所に目を通しておきましょう。		
評価方法	①受講態度（40%） ②取り組み（40%） ③実践（20%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	事後学習として、授業内容の復習に加え、授業で提示する参考文献、新聞や雑誌の記事などで理解を深めていきましょう。授業を通して各自の関心・問題意識を発見し深めるよう、主体的に取り組ましましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	劇あそび（指導法） (Play Method of Teaching)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	滝沢 ほだか
学科	こども保育科	授業	演習	総時間	15	開講区分	集中
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	1	曜日・時限	
【授業の学習内容】 領域「表現」を観点に、発達段階に応じた子どもの遊び（ごっこ、劇あそび）の内容と意義について学習する。伴う表現活動（歌う、演奏する、踊るなど）の演習課題を通し、感じたり、考えたり、想像したり、創造する力を養う。毎時間、振り返りノートの作成を行う。							
※実務者経験：神奈川県内公立中学校にて、音楽担当経験あり。現在は、保育者養成校である短期大学で、音楽専門科目と保育内容の指導法（表現）を担当している。							
【到達目標】 ・領域「表現」の「ねらい」「内容」について理解する。 ・子どもの発達に即した遊びの過程を理解し、どのような援助が必要か考えることができる。 ・子どもの表現を育てうる実践力と指導法を身につける。							

授業計画・内容			
1回目	領域「表現」のねらいと内容について理解する。		
2回目	身振り表現の発達について知る。		
3回目	身振り表現活動の発展と指導法・活動評価の考え方について理解する。		
4回目	幼児の音楽表現（保育現場での音楽・リトミック）について理解する。		
5回目	「劇あそび」の意義と役割について知る。		
6回目	「劇あそび」における援助（イメージの実現・環境の設定・人との関わり）について理解する。		
7回目	「劇あそび」の意義と役割について知る。指導計画立案の要点・作成(表現あそび課題説明)について理解する。		
8回目	課題の創作（グループワーク）		
9回目	グループ発表と鑑賞・振り返り		
10回目	保育における表現について考える。		
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	授業の内容をしっかりと記録し、振り返りノートを作成。予習復習に活用する。		
評価方法	グループ発表70% 振り返りノート30%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	授業への積極的な参加を期待します。		
【使用教科書・教材・参考書】			
講義前に提示する。			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	保育内容総論 (Childcare Contents General Remarks)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	金森由華
学科	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分 曜日・時限	集中
コース	昼間Ⅰ部						

【授業の学習内容】
『保育所保育指針解説書』を中心に、保育の基礎知識および保育内容の歴史的変遷を理解し、基本原理を理解することを目指す。同時に、基本原理を踏まえ、指導計画を立案し、実践する力を養う。講義形式の他、保育教材の研究を行い、保育実践を構築し、批判的に検討できる力の素地を培う。

【到達目標】
①保育内容の歴史的展開を踏まえ、保育所保育や子どもの育ちをめぐる現状と課題について説明できる。
②保育所保育の役割、環境を通して行う保育、保育における遊びの位置づけなどの基本原理について説明でき、実践に反映できる。
③保育の総合性を踏まえ、指導計画を立案し、実施することができる。
④子どもの最善の利益について複眼的に思考し、保育実践を批判的に検討することができる。

授業計画・内容			
1回目	日本における子ども・子育てをめぐる現状と課題について理解する-保育の基礎知識①		
2回目	幼稚園・保育所の成立と保育方法の歴史的展開について理解する-保育の基礎知識②		
3回目	保育所保育の目的・役割について理解する-保育の基本原理①		
4回目	保育内容「ねらい」・「内容」の意味について理解する-保育内容の理解①		
5回目	保育の総合性とは何か-保育内容の理解②		
6回目	指導計画立案の考え方・書き方の基本を知る。		
7回目	子どもの発達過程に応じた保育について理解する。		
8回目	遊びと保育について考える。		
9回目	子どもの「最善の利益」とは-保育所保育をめぐる論点と議論		
10回目	小学校との接続・共生の保育について理解する。		
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	事前に『保育所保育指針解説書』第1章「総則」に目を通しておくこと。 事後学習としては、本講義で学んだ保育所保育の全体構造を、他の教科目との関連づける意識を忘れないでほしい。また授業内で提示する参考文献等で理解を深めてほしい。		
評価方法	1. 1日目レポート (45%) 2. 2日目授業内課題 (45%) 3. 授業への参加・発言等 (10%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ			
【使用教科書・教材・参考書】			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	健康科学 (Health science)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	山下 玲香
学科	こども保育科	授業	講義	総時間	15	開講区分	科目終末試験
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	1	曜日・時間	レポート科目

【授業の学習内容】 ・現代社会におけるスポーツの在り方や我々が実際に暮らしている社会を考えることによって、自分の経験だけでは獲得できないような様々な視点を得ることができる。子供の身体活動の在り方や運動指導の光と影、様々な事例を多角的に検討して考える力を身に着けることを目的とする。
--

【到達目標】 1) 健康維持や体力向上に対するスポーツ活動のもつ教育的意義について説明することができる。 2) 国内外のスポーツに関連する事象に関しての知識を深め、グローバルな視点からスポーツを論じることができるようになる。 3) 社会的な視点から、スポーツ関連の現象を多角的に見ることができるようになる。

授業計画・内容			
1回目	【レポート作成】		
2回目	テーマ　：　現代社会におけるスポーツの意義と課題		
3回目	1) 以下の項目を中心に新聞・雑誌記事を収集する（インターネット検索も可）		
4回目	①「スポーツの意義」（スポーツに期待されること）について		
5回目	②商業主義、勝利至上主義などの問題点と課題について		
6回目	キーワード：「スポーツ」「からだ」「健康」「体育」「運動」「保健」など		
7回目	2) 収集した新聞・雑誌記事（インターネット検索も可）をレポート用紙にまとめる		
8回目	【注意事項】		
9回目	・引用した記事をA4の用紙（レポート用紙と同じ大きさ）に貼付すること。		
10回目	・レポート用紙末尾にホッチキスで止める（収集したすべての記事を添付する必要はない）。		
11回目	・記事の出典を必ず記入すること。　例）〇〇新聞、2014年／2／12朝刊		
12回目	【アドバイス】		
13回目	レポート作成の過程で、様々なスポーツ現象に関わった情報に関心を向ける必要があります。その上で、		
14回目	自ら具体的に情報を収集し、適切な情報を選択し、自分の頭で考えながら実践していくために必要なス		
15回目	ポーツや健康に関わった知識を獲得していきましょう。テキストや参考文献の記述内容に頼る（丸写しす		
	るなど）だけではなく、「自らのスポーツ（健康）に対する考え方」を述べたり、「自らの体験をふまえて」解答することが求められます。		
準備学習 時間外学習	・テレビ、新聞・雑誌、インターネットにおける健康・体力、スポーツに関する情報（幼児教育）に日常的に関心を向けておくこと。		
評価方法	1. 定期試験（70%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（100%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F 不合格	
受講生への メッセージ	スポーツは、社会に対してプラスの機能だけでなく、マイナスの機能も生じさせています。また、スポーツが社会現象として存在する限り、スポーツもまた社会のあり方によって規定される。社会の変化の中でスポーツの考え方やあり方を学習し、これからの進むべき方向について考える視点を学んでいきましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	幼児の心理学 (Infant psychology)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	河嶋 珠実
学科	こども保育科	授業	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分 曜日・時間	科目終末試験 レポート科目
コース	昼間Ⅰ部	形態					
【授業の学習内容】 ・ピアジェの発達理論について4つの発達段階をそれぞれ説明し、それらを教育・保育にどのように生かせばよい か、具体例を挙げて論ずる。 ※実務経験：2014年4月に臨床心理士、2020年に公認心理師を取得し、臨床心理士を取得以降カウンセリング業務に 携わる中で、発達障害を抱える児童へのプレイセラピーの実施・保護者相談・青年期や成人を対象としたカウンセリ ングを行っている							
【到達目標】 心理学の知識を学ぶことを通して、保育において心理学の視点を生かせるようになることを教育目標とする。人はど のように学習を行っているのかということや、どのような人間関係を築いていくのかを学ぶ。また、心理学における 様々な研究から得られた知見を学ぶことで、保育の実際の中で工夫や援助ができるようになることを目指す。							

授業計画・内容			
1回目	<レポート作成上のアドバイス>		
2回目	テキストを十分に読み、関心のあるところ、分からなかったところについて、他の文献を調べ、理解を深めてください。レポートは学習した内容に関して自分の考えをまとめるものです。テキストをそのまま抜き出したり、内容をつなぎ合せたりしただけのレポートにならないよう、自分の考えをまとめ、自分の言葉で表現して下さい。 また、テキストや参考文献からの引用は、引用箇所と文献を必ず明記してください。あまり推奨されませんがもしネット上の記事を引用する場合は、必ずその記事を執筆した作者の氏名が分かるもののみ引用するようにしましょう。また、その場合もハンドルネームなどではなく実名で公開されている記事を引用可能とします。引用の仕方については授業内で再度指示します。		
3回目			
4回目			
5回目			
6回目			
7回目			
8回目			
9回目			
10回目	<科目終末試験対策のアドバイス>		
11回目	テキストを熟読して下さい。受験の際の文献の持ち込みは認められないため、授業配布プリントと該当するテキスト範囲を学習して望んでください。		
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	あらかじめテキストを熟読しておくこと。心理学の知見を実際に保育現場でどのように活用できるのかを考えることが重要であり、自ら主体的に考え、学習に取り組む姿勢が必要です。		
評価方法	レポート、科目終末試験：60点以上で合格	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ			
【使用教科書・教材・参考書】 伊藤健次編『保育に生かす教育心理学』（株）みらい2008年			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	造形表現（指導法） (Formative expression (teaching method))	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	鈴木 葵
学科	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 1	開講区分	科目終末試験
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	レポート科目
【授業の学習内容】 幼児にとっての造形活動体験は心身の成長発達において欠くことのできない重要な体験である。本講ではそれらを実際に体験し、幼児の発達の段階に応じた造形あそびにおける素材や技法、支援方法を学ぶ。							
【到達目標】 周囲の世界を全身の感覚器官を通して感じ、心身ともに成長していく幼児期において、ともに感動し、表現する保育者も、子どもを育てる大切な環境です。保育者が幼児一人ひとりの自己表現を受容し、理解できる援助者であることは、幼児の豊かな感性を養うために重要となります。 レポート課題では、子どもの身体的発達と幼児画の発達過程の特徴について理解し、子ども一人ひとりの発達に応じた援助の必要性について学び、成長を見守れる保育者を目指します。また、美術表現技法と表現の理解を深め、子どもとの創作活動に役立つ様々な素材や表現方法の基礎知識を習得します。演習課題においては、色彩、絵具の基礎知識と色づくりを実体験から学び、幼児教育における造形表現の基礎技能の習得を目指します。							

授業計画・内容			
1回目	・レポート課題の理解力（課題内容・条件を理解してレポート、作品制作に取り組む）		
2回目	・幼児画の発達に関するレポート課題や作品制作を通して、自己表現や成長について学び、自分の大切さを知るとともに他者の表現や存在も尊重できる姿勢をはぐくむ。		
3回目	・身体的発達と、幼児画の発達過程の特徴について理解する。		
4回目	・基礎的美術表現技法と用語についてその特徴と表現を理解する。		
5回目	・色彩学の基礎用語を理解する。		
6回目	・絵具の選び方、使い方、色の特徴を理解し、色の作り方や色調表現を楽しみ、豊かにする。		
7回目	・作品制作工程の記録、製作意図、感想文の記述を通し、作品鑑賞を行う。		
8回目	<色彩演習課題>		
9回目	・作品は、赤・黄・青・緑の4原色と白・黒のみで制作します。絵具セットに、同系色の色がある場合、次の色名の4原色を使用してください。ただし、メーカーによって色名が違う場合がありますので、大まかな目安とします。（あか、レモンきいろ、あお、みどり）		
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	安定した表現効果を得るために、安全性や品質の保証されたメーカーの絵具を使用する。 （安価の絵具の中には、混色すると色が分離、変色するなど、混色の効果が得られない場合がある。）		
評価方法	レポート課題 100%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ			
【使用教科書・教材・参考書】			
テキスト 「造形表現（指導法）」			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	教育方法論 (Education methodology)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	村松 香織
学科	こども保育科	授業	講義	総時間	15	開講区分	科目終末試験
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	1	曜日・時限	レポート科目

【授業の学習内容】

<1冊目>

テキスト『幼児教育の方法』第2章を参照し、「見える保育」「見えない保育」とは何かを自分自身の経験に即した具体例を挙げながら説明し、幼児教育において子どもの主体性をどのように考えるべきか考察する。

<2冊目>

「遊び」を通して幼児は何をどのように学んでいるのか、「遊び」の具体例を挙げて論じる。論じるにあたっては、テキスト『幼児教育の方法』第3章をよく読んでおくこと。

【到達目標】

- ①教育の方法に関する理論的知識を習得すること。
- ②乳幼児期の教育の方法に関する基本原理を理解し、説明できること。
- ③②を踏まえ、保育現場における実践を構想できること。

授業計画・内容

1回目	ガイダンス、「遊び」とはなにか 「遊び」の定義や意義について学習する。
2回目	
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

授業では、時折「提出課題」と「復習シート」を授業終了時に配ります。これらの課題は、授業終了後に各自作成し、次回の授業までに提出してもらいます。**復習シートの内容は、終末課題試験の内容に直接繋がるので、必ず復習シートを提出・保管して下さい。**また、12～14回目のレポート作成の時間では、12回目の授業で学習した内容(レポートの書き方)を踏まえて、13回目、14回目の授業開始時までに、各自、レポートを書いてきてもらいます。**12～14回目の授業を通して、完成させたレポートは、終末課題レポート締め切り日に提出する学校課題**のレポートの下書きになるので、12、13回目の授業で提示した学習課題を、必ず13、14回目の授業開始時までに終わらせるようお願いいたします。

準備学習 時間外学習			
評価方法	レポート、科目終末試験60点以上で合格	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	

受講生への
メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

『幼児教育の方法』（北大路書房）